

聊天学日语①

もっと知りたい日本と中国

南开大学外国语学院日语系 王健宜
编著 天津市视障者日语培训学校 青木阳子
天津人民广播电台 国际部



南开大学出版社

聊天学日语 ①

もっと知りたい日本と中国

南开大学外国语学院日语系 王健宜
编著 天津市视障者日语培训学校 青木阳子
天津人民广播电台国际部

南开大学出版社
天津

图书在版编目(CIP)数据

聊天学日语 / 王建宜, (日)青木阳子编著. —天津:
南开大学出版社, 2003. 2
ISBN 7-310-01795-1

I. 聊... II. ①王... ②青... III. 日语—听说教学
—自学参考资料 IV. H369. 9

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2002)第 075110 号

出版发行 南开大学出版社

地址: 天津市南开区卫津路 94 号 邮编 300071

营销部电话: (022)23508339 23500755

营销部传真: (022)23508542

邮购部电话 (022)23502200

出版人 肖占鹏

承印 南开大学印刷厂印刷

经销 全国各地新华书店

版次 2003 年 2 月第 1 版

印次 2003 年 2 月第 1 次印刷

开本 787mm×1092mm 1/16

印张 17.25

字数 410 千字

印数 1—5000

定价 25.00 元

编辑委员会

主 编 马津力 李英华 刘素琴

执行编辑 崔 涛 陆平舟

编 委 马津力 李英华 崔 涛

陆平舟 王健宜 青木阳子

孙淑敏 薛述岷 杨 君

编 者 王健宜 青木阳子

序

21 世纪初年,天津电台国际部制作的《你好!星期天》日语专题节目,受到广大日语爱好者的欢迎;两年之后,在广播节目的基础上,经过编播人员与南开大学出版社的辛勤努力,又出版了听力教材《聊天学日语》,为日语学习爱好者提供了一套全新的有声读物,可喜可贺。

广播要与时俱进、谋求发展,就要多渠道、多层次的探索。此次,电台国际部和南开大学出版社联手,将转瞬即逝的广播节目,化为可长久留存的书籍和音带。既开辟出广播生存的另类空间,又扩大了广播载体的外延,是具有开拓意义和市场价值的一次有益尝试。

广播是大众媒体,首要问题是要拥有受众。根据受众需求制作精良节目,是广播电台的生存之本。为此,我们需要获得社会各界朋友的帮助与支持。借此机会,我要向长期支持我们工作、关心我们节目的朋友、听众表示感谢。向为出版本套日语教材而做了大量工作的南开大学出版社、日籍日语教育专家青木阳子小姐、南开大学外国语学院日语教授王健宜先生及其编辑陆平舟、薛述岷等人表示衷心的感谢。

天津人民广播电台总编辑 李英华

2002 年 10 月

前 言

今年是中日两国恢复邦交正常化 30 周年。随着两国文化交流的不断扩大,经济和人员往来日益增多,希望有机会学习日语、了解日本的中国人尤其是年轻人也越来越多。这说明中日友好正在深入人心,两国的交往正在朝更深的层次发展。真正的中日友好的第一步是要彼此加深了解,从政治、经济、社会、文化、历史、风俗习惯等方面,全面准确、客观公正地认识对方。

从 2000 年元月开始,受天津人民广播电台的委托,我和日本友人青木阳子女士共同主持日语特别节目《你好!星期天》,转眼间节目已经开办两年多了。这个节目完全是对谈形式,每期确定一个话题,我们分别准备素材,不写讲稿,现场发挥,力求做到真正的口语化。节目内容涉及日本的历史文化、衣食住行,也包括中日交流、世界知识等。应广大听众的要求,此次我们将部分节目整理成文字材料,对其中比较难懂的词语做了适当的注释,结集出版,供日语学习和爱好者作为听力教材和了解日本的参考书使用,希望它对于各位听众和读者有所帮助。

节目制作和本书出版过程中自始至终得到了天津人民广播电台各级领导的大力支持,南开大学出版社张华同志以及南开大学日语系胡进、扬朝桂、马媛、李江华、李研等同学也为本书编辑和文字整理做了大量的工作,在此深表谢意。

王健宜

2000 年仲夏于南开园

目 録

第 一 課	(1)	国花と国島
第 二 課	(14)	歌と日本人(一)
第 三 課	(28)	歌と日本人(二)
第 四 課	(44)	日本の古代風習
第 五 課	(59)	オリンピック
第 六 課	(70)	受験
第 七 課	(80)	日本酒
第 八 課	(92)	魚
第 九 課	(107)	七夕
第 十 課	(118)	中秋
第十一課	(127)	鬼の話
第十二課	(139)	クリスマス
第十三課	(151)	葉っぱ(一)
第十四課	(155)	葉っぱ(二)
第十五課	(166)	俳句
第十六課	(176)	切腹
第十七課	(187)	お正月
第十八課	(194)	日本語クイズ
第十九課	(204)	日本語の教授法
第二十課	(216)	お盆
第二十一課	(229)	チーズはどこに消えたか
第二十二課	(240)	天津での仕事
第二十三課	(248)	私の日中留学記
第二十四課	(258)	中国旅行

国花と国鳥

第一課

王：えー、今日はどういう話題ですかと言いますと、えー、これは…

青木：国花。

王：うん、国花。

青木：国の花。

王：うん、国の花と、国の鳥。

青木：はい、国鳥。

王：国鳥ですね。

青木：話しが国鳥までいけるかどうかわかりませんが。

王：はい、国花と国鳥の話しを少ししていきたいと思います。

青木：はい。

王：えー、まあ、国花と言いますと、国の花。えー、これは、先生、日本では、だいたいどんな感じですか？

青木：日本ではですね。まあ、法律で国の花は何にしろと言う規定はないんですけど、まあ、一応桜か、菊かということで、まあ一応桜に今のところ軍配があがっているところなんですね。

王：なるほど。

青木：では、国花と言いますのは、その各国を象徴する花ですよ。たとえば、イギリスですとバラ。

王：バラ、うん。

青木：ギリシアのオリーブ^①。

王：オリーブですね。うん。

青木：それで、フランスですとアイリス^②——というかわいいらしい花ですよ。

王：うん。

青木：それで、エジプトの睡蓮ですとか。

王：うん、睡蓮ですね。

青木：メキシコでいきますとサボテン^③。

王：サボテンですね。

青木：えー、インドですね、これはちょっと物騒^④なんですが、ケシ。

王：うん、ケシ。

青木：ケシの花。麻薬の原料になりますね。

王：はい、はいはい。

青木：シンガポールの蘭とか。

王：蘭ですね。

青木：まあ、いろいろあるんですけど。

王：はい。

青木：アメリカはですね、国の花というのはいないんです、ただ州花、つまり州の花を、まあ、決めたところが若干ありにすぎないんですよ。

王：ああ、じゃ、各州に州の花がありますね。

青木：はい。で、中国ではどうなんでしょうか。

王：えーとね、中国も日本とほぼ同じように、法律的には決められていないんですね。法律的にはないんですけれども、でも昔は、あのう、梅の花ですね、これは、まあ昔だったんですけれども。そして、まあ、現在は、あのう、要するに牡丹ですね。

青木：そうですね。まあ、昔、その牡丹だったのが、国民党時代に1929年に、まあ、法律によって、梅と決められまして。

王：そういうことですね。

青木：そして、それがまた桜に戻ったと言うことですよ。

王：牡丹に戻った。

青木：ああ、牡丹、すみません、牡丹に戻ったということですよ。

王：うん、昔は牡丹だったですね。えー、今も、まあ、国の規定はないんですけれども、でも、一応、あのう、国の花と、代表的な花とさえいいですね。

青木：それは牡丹ですね。

王：代表的な花と言えば、牡丹ですね。そして、あのう、中国では、たとえば西安とか、あるいは洛陽とかね、これは要するに昔の都だったわけですね。

青木：ええ、古都ですね。

王：ええ、古都ですから。そちらでは牡丹のお祭りとはね。

青木：特に、洛陽の牡丹祭りは有名ですね。

王：洛陽の牡丹祭りは有名ですね。

青木：四月のなかば頃ですからね。

王：ああ、そうですね。

青木：私は洛陽に行った時はちょっと三月だったんで、花は全然咲いてなかったんですけども、四月のなかばに行くと牡丹は…

王：まだ時期は少し早かったんですね。

青木：この牡丹なんですけどね。

王：はい。

青木：おもしろいことに、まあ、なぜその牡丹が国花としてボツ^⑤になったかというところで、ちょっと注目したんですけども。その牡丹という花、あまりにも華美でして、革命その中国に似つかしくないという理由でです、どうもボツにされたのではないかという説が濃厚なんです。

王：革命的な花じゃない。

青木：花じゃないですね。まあ、中国のその国花、まあ、法令、いわゆるですね、九一八事件、九・一八事件、いわゆる満州事変ですね、その直前に、1929年に、まあ、出されたものなんですけれども。まあ、えー、日本で言いますとね、梅に、たとえば、まあ、中国で梅なんですけれどもね。梅、1929年に梅ということになったんですけども、日本では「梅にうぐいす」、対になって使われますよね。ところが、中国では「梅にうぐいす」という表現はありませんよね。ほかに…

王：ありません、ありません。

青木：梅っていうと、もう雪。

王：雪です。

青木：ですよ。

王：そうですね、雪です。

青木：まあ、梅ありて、雪なければ、

王：そうですね。

青木：精神ならずという言葉があるように、

王：そうですね。

青木：それは、まあ、列強の侵略ですとか、圧迫を、まあ、はねのけて、近代国家建設に邁進すべき国の花として、ですね。やはり雪を伴って、梅の花こそ、

王：なるほど。

青木：まあ、適役ではないかということだったようです。

王：ああ、なるほど。

青木：で、昔、中国で、その花見といいますと、やはり、まあ、特に断わり書きがなければ、その対象は牡丹でしたね。

王：牡丹でしたね。うん。

青木：私の手元に、白居易の詩があるんですけども、花開き花おつ二十日、一条の人皆狂うが如しと、まあ、白居易は唐のですね、長安の花見を詠んでいるんですね。

王：なるほど。

青木：まあ、人々がその牡丹に、えー、まあ、興じていたと、「狂うが如し」ですから。

王：なるほど。

青木：まあ、この詩の末尾をですよね、白楽天はこのように結んでいます。わが願う、しばらく、造化の力を、えー、求め、牡丹妖艶の、牡丹妖艶の色、滅却し、すこしく、えー、京師の哀歎の心を巡らして、吾が君の稼穡を愛すにおなじくにせむ。まあ、つまり、造化の神の、まあ、力を借りまして、牡丹のあのあやしい美しさはですね、あやしい美しさをすり減らして、まあ、大臣達ですね、花を愛する心を別の方向に向けさせ、まあ、農業の心をご心配になるわが君、つまり皇帝ですよね、わが君の心に見せるようにさせたいものだなあと言う詩らしいんですけども。

王：なるほど。うん。まあ、要するに、昔はやっぱ梅より牡丹のほうは注目されてるですね。

青木：そうですね。で、特に西安では、たとえば、寺院などではですね。広い土地で、まあ、多い人手利用しまして、牡丹を栽培して、売り出したりですね。それで、お金儲けをしているところもあったんです。あるいは闘花と言う、まあ、花比べと言う行事があったり、人々は、まあ、それぞれ、その自慢の花を紙にかざしてですね。まあ、都往路をねりあるいたことなんですけども。たとえば、長安のですね。西明寺と言うお寺があって、そして、慈恩寺などの、まあ、牡丹の名所、まあ、花見時になると、人で、ごったがえしたということなんですね。で、遅咲きで、有名な、で、たとえば、大秦院などではですね。やはり行く春惜しむ人々で、まあ、にぎわったと言うことなんですけども。

王：なるほど。

青木：まあ、牡丹にはですね、このように、人々を夢中にさせる何か…

王：力が…

青木：力があったです。

王：あったと。

青木：ですから、その革命と情熱を中国の国花としたら、その牡丹は…

王：似合わない。

青木：似つかしくなかったということのようですよ。

王：似つかしくない。

青木：はい。

王：なるほど。先生、私の手元にもね、今、中国の牡丹の話しをしましたけれども。日本人はどんな花や植物が好きですかと言う、ちょっとデータがありますよね。

青木：うん。はい、はい。

王：ここに皆さんに紹介しますが。これは、えー、ちょっとね、二、三年前のデータだったんですけども。日本で、えー、卸売り[®]された花の本数の概算です。

青木：ああ。

王：この本、かなりおもしろいからですね。えー、今言ってるですね、たとえば、日本の国の花は、あのう、桜と言って、言いながらですね、まあ、花の販売ですね。花の卸売りと言うのは、これ、桜はあんまり、あのう、

青木：切り花にはしませんからね。

王：花では、切り花にはしませんからね。

青木：ええ、ないですからね。

王：切り花には入っていません。

青木：はい。

王：ええ。第一位、菊です。

青木：ああ。

王：第一位、菊ですね。

青木：菊ですね。

王：菊で、20 億本ですね。

青木：菊、あのう、おめでたい時にも使えますし、

王：そうですね。

青木：それから、お葬式にも使えますし。

王：そういうこと、そういうこと。

青木：冠婚葬祭には、もう欠かせないものです。

王：そうですね。非常に使う範囲が広いんですね。

青木：はい。

王：第二位、カーネーションで。

青木：ああ、母の日に使えますね。

王：ええ、これは、そうですね、5 億 9 千万本ですね。

青木：うん。

王：第三位は、バラ。これは4 億 3 千万本ですね。

青木：なるほど。

王：第四位は、百合です。

青木：百合。

王：百合は2 億本です。

青木：知らないんですけど。

王：2 億本ですね。まあ、それぞれ中国名になおしますと、菊は、あのう、「菊花」ですね。

青木：はい。

王：カーネーションは「康乃馨」ですね。

青木：はい。

王：それから、三位のバラは、これは、「薔薇」、あるいは「玫瑰」ですね。

青木：「玫瑰」ですね。

王：「玫瑰」ですね。第四位は百合ですね。これ、「百合」ですね。まあ、それぞれはどうしてこうなっているかと言うとは、今先生もおっしゃったよう、菊の使用量が多いのは、冠婚葬祭ですよ。

青木：そうです。ええ。

王：みんな使えるということですよ。

青木：まあ、色はちょっと、あのう、黄色はあれです、おめでたい時に使えますし、

王：そうですね。

青木：白はどちらかと言っても、葬式。

王：ほー、葬式ですよ。

青木：必ずお葬式に出てくる菊の花ですよ。

王：法事などで、仏前にささげる花は、菊は主体だったからですね。

青木：そうですね。

王：で、カーネーションは、今、あのう、母の日、

青木：母の日にですね。

王：お母さんに、母親にあげるという習慣があります。これも、たいへん消費量が多いというわけですね。

青木：はい。

王：しかしね、いろんな層の人達の好みとしては、バラ、百合などあげる人が非常に多いですね。

青木：そうですね。特に真っ赤なバラはですね、情熱を表します。恋人などに贈るにも適してる。

王：そういうことですね。はい。それから、今言った桜ですね。で、桜の花は、これは日本人にとっては、単なる桜という花というよりも、一種の、何というか、民族的なあれ、シンボル^⑦ですね。

青木：そうです。シンボルですね。

王：シンボルですね。だから、忘れられない、まあ、一種の花なんですから。

青木：花見の一つですよ。

王：特に春になりますと、日本人の多くは桜の花を求めですね。この花、

青木：花見。

王：花見ですね。野山に出たりですね、公園にくだしてるわけですね。

青木：まあ、入学式にも、それから卒業式にも、やはりイメージされるのは桜ですね。

王：桜ですね。そうですね。

青木：で、あのう、近年ですね、欧米に習って、まあ、入学式を九月にしようじゃないかと、

王：なるほど。

青木：という議論が盛り上がってきた時でも、

王：新学期は九月に変わると言うようですね。

青木：しようじゃないかと、その議論が持ち上がった時に、ですらですね、いや、それは桜の季節からはずれているから、だめだと言うことですね。

王：なるほど。

青木：もう。

王：そんなにね、やっぱり日本人は桜に非常に、まあ、なんと言うか、執着してるわけですね。

青木：はい。

王：あのう、桜の季節に、えー、要するに、そういう入学式とかね、あのう、おめでたいことをするのは、これは本当にいいと言うような雰囲気をも…

青木：思ってるですね。

王：思ってるわけですね。

青木：まあ、そこでの花びらが散る、中をですね、こう歩いていくというのが、何かいい風情⁸があるらしいですよ。

王：そうですね。後はね、桜の花の下で宴会を開きますね、

青木：これは花、花見、

王：これもまた、これもまた日本の独特なあれ、あのう、風情ですね。

青木：そうですね。

王：これは花見。

青木：花見ですね。

王：という言葉の花は何の花と言わなくても、

青木：もう桜です。

王：これは桜の花を指してる。ということですね、それだけ、やっぱり花見という
と、桜。

青木：桜ですね。

王：ということですね。

青木：最近、あのう、まあ、花見の時にやらされるのがですね、花見の席取り。

王：はい。

青木：これだいたい、あのう、新入社員の仕事なんですよ。

王：なるほど。

青木：これも、夜のためですね、

王：大変ですね。

青木：昼間から、昼間から陣取⁹っていないと、席が確保できないよ、特に上野公園で
すね。

王：上野公園はたいへんですね。

青木：ええ、大変です。

王：もう、その一日、二日終わるとですね、今度は、あのう、何と言うの、混乱した状態の
もとで、えー、何という、こう、あのう、靴とか、えー、紛失物とか、

青木：うん、そうですね。

王：たくさんありますね。もう山ほどになってるですね。

青木：ええ。でも、桜の…

王：やっぱり、それだけ日本人は桜の花が好きですね。

青木：そうですね。桜の開花予想ですとかね、もう春になると、あと、桜前線などの時報
じられます。

王：ありますからね。

青木：で、花見の様子などもですね、海外に紹介されているようですよ。

王：うん、そうですね。

青木：で、ちなみに、桜前線の対象になるのは染井吉野ですよ。

王：ああ、染井吉野ですよ。

青木：ええ、染井吉野なんですが。この染井吉野…

王：これ、桜の種類ですよ。

青木：種類です。これはですね。東京のJR 巣鴨駒込駅の北側にですね、昔、染井と言う地名があったんですね。

王：ありますね。

青木：染井というところは。

王：はい、はい。

青木：そこにはその植木職人がたくさんいたんです。まあ、染井と言う土地のですね、植木屋から売り出されたのが染井吉野であった。

王：ああ、そうですか。

青木：はい。

王：私はね、巣鴨駅の近くに一年住んだことがあります。

青木：ああ、じゃ、もう、染井の…

王：染井の地名は知ってるんだけど、今桜の名前はそこから出たって、

青木：そこから出たよね。

王：これは全然知らなかった。

青木：明治、えー、明治の初年頃から、まあ、全国に広まっていたと言う、いわれているんですけど。

王：ああ、そうですか。

青木：植木さんから売り出されたの苗木が、もう桜と言うと、染井吉野のですからね。

王：なるほど。

青木：ええ。

王：一遍に有名になったわけですよ。

青木：そうですね。

王：なるほど。花の話をだいぶしましたが。

青木：そうですね。まあ、桜と対比されるのはですね、秋を代表する菊。

王：菊ですね。

青木：ええ、菊の出荷量、えー、出荷量と言いますか、売上量…

王：売上量は…

青木：売上量はベスト10の第一位だと言ったところですけども。

王：第一位です。そうですね。はい。

青木：まあ、日本人に愛されてる花の一つではあるんですが、桜に比べますとね、非常に高尚な感じがするんですね。それはなぜかと言いますと、菊が、その皇室、天皇家ですね。皇室の御紋であるばかりでなく、まあ、優雅の菊人形でイメージされてるからだろうと言われているんです。で、菊が、まあ、中国でもけっこう菊の品評会

とか、ありますけどね、

王：ありますね。はあはあ。

青木：菊が皇室の紋として、まあ、定着したのは、鎌倉時代からなんですが。江戸時代までは、まあ、皇室以外でも用いられていたようです。この紋が皇室以外で禁止されるようになったのはですね、明治からなんですね。で、その明治以降は、菊はですね、国を象徴する花となりまして、まあ、最上級の勲章、つまり菊花賞ですよ。でも、のデザインにも使われております。で、菊、まあ、古くから栽培、それから品種改良されまして、まあ、多くのその種類が生まれたんですけども、江戸時代にはです、だいたいもうその現在あるほとんどの種類がもう出揃いまして、菊を加工することがひろまったんですね。

王：なるほど。

青木：で、まあ、菊人形が発明されたということなんですけども。菊人形はですね、現在の、まあ、東京麻布で初めて作られました。で、続いて、先ほど申しました、植木職人が多数いた染井でですね、流行したんです。その後、まあ、各地に広まっていったと。つまり、染井で流行して、染井から、まあ、各地にでんばしていったと言うことなんですね。

王：なるほど。先生、今おっしゃった、要するに、あのう、天皇室ですね、皇室の紋になったと言うのは、今一般的には使ってはいけないということですか。

青木：一般的にはだめですね。

王：だめですね。

青木：はい、一般的には、皇室の御紋である。はい。

王：菊は皇室以外には使ってはいけないということですね。それから、中国でも、あのう、菊と言うと、非常に高級な感じがしますね。

青木：そうですね。うん。

王：高級な感じで、

青木：まあ、貴婦人という感じですよ。イメージとして。

王：そうですね。はい。それから、あのう、品評会もたくさんありまして、

青木：ありますね。

王：そして、あのう、その品評会の評価に基づいて、えー、花によっては、かなりたくさん、要するに値段がつけられてるですね。

青木：そうですね。

王：日本にも同じようなやりかたですか？

青木：同じように、はい、品評会もやります。それから、先ほど言いました、菊人形ですね、これは11月に入りますと、各地でも菊人形祭りが行われます。

王：ああ。なるほど。

青木：はい。

王：まあ、中国と日本はだいたい菊に対する印象、イメージはいっしょですね。

青木：そうですね。桜の場合はちょっと品評会とかないんですからね。

王：桜はないんですね。今、言った牡丹もあまりしないんですね。

青木：品評会はしないんですね。

王：牡丹は品評会はあるんですね。牡丹祭りはしますけれども。まあ、きれいなあと、みんな思うんですが、でも、どれが一位で、どれが二位か、そういうのはあまりしないんですね。

青木：はい。しないんですね。あと、菊の花が咲いてところで、宴会もやりませんしね。

王：そうですね。菊の花というと、今言った品評会ですね。

青木：ええ。

王：要するに、あのう、甲乙をつけるというのですね、上下をするというのは、まあ、これは、だいたい菊の花ですね。

青木：そうですね。うん。まあ、種類もたくさんありますしね。

王：たくさんありますね。

青木：はい。

王：まあ、一番何かいいのは緑色ですか。

青木：そうですか？

王：色って。

青木：色の時には黄色ですよ。

王：黄色のほうは。でも、菊は何かね、みどりのいろもあるんですって。

青木：そうですか。

王：うん。僕、私は見たことがないんですけども。

青木：私いつも見たのは黄色ですね。

王：黄色ですよ。

青木：で、その次で言えば、白ですよ。

王：そうだね。

青木：うん。

王：ううん。はい、今話しをしたのは、あのう、菊、ああ、花、花の話しですよ。次は鳥。

青木：鳥。国鳥。

王：国鳥ですね。国の鳥っていうのは中国ではないですよ。国の鳥っていうのは、全然そんな考え方がないですね。日本では、ありますよね。

青木：そうですね、世界各国のシンボルともなっているのは、まあ、国鳥なんです。

王：国鳥ですね。

青木：まあ、鳥類保護の考えを広めるために、まあ、選定される場合が多いそうです。

王：ああ、なるほど。

青木：日本の場合は1947年に、日本鳥学会によってキジと定められました。私、これ、あのう、トキ^⑨だと思っていたんですね、長い間。ところが、資料を調べましたが、トキじゃなくて、キジだった。